

# セネガル国 非感染性疾患対策強化プロジェクト

## 通称：Aaru Ci MNT（アールウチ・エム・エヌ・ティ）

### ニュースレター第6号

2026年1月発行

## セネガル、チュニジア、モロッコの保健行政官が来日 非感染性疾患対策 強化研修を実施しました

2025年10月14日から27日にかけて、セネガル、チュニジア、モロッコから保健行政官12人が来日し、東京都、千葉県、宮城県を訪れました。参加者は役所や研究機関・病院などを見学しながら学び、さらに民間の企業の取組についての講義を受けたり、医療サービスを利用する人々を含む関係者と意見交換を行いました。



研修では、厚生労働省の政策をもとに、千葉県船橋市、宮城県(東松島市、塩釜市)が、地域の特性やニーズに合わせて一貫した取組みを行い、NCDsの予防、早期発見（スクリーニング）、治療、リハビリまでを支える仕組みについて学びました。厚生労働省では、日本の医療制度とNCDs対策の全体のおおきくについて学びました（写真上左）、宮城県庁（保健福祉部）では、県レベルの保健福祉の取組やNCDs対策について体系的に学びました（写真上右）。

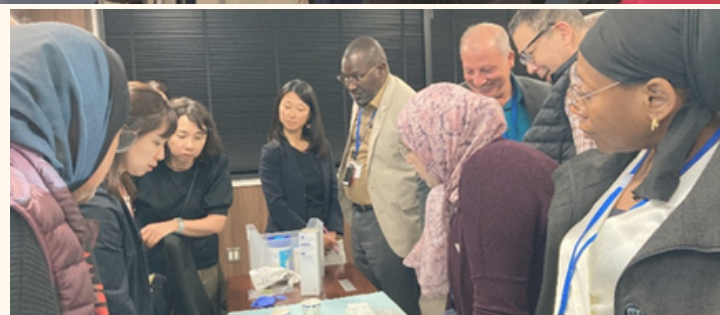


船橋市では、保健所と保健センターの役割を併せ持つ船橋保健福祉センターを訪問し、講義と見学を通じて地域に根ざした保健活動の実際を学びました。また、高齢者の健康づくりのための体操プログラムの取組も見学しました。最後に市長を訪問し、研修員一行は温かい歓迎を受けました（写真上左）。さらに、塩釜保健所で、住民の行動習慣の改善を促すための、わかりやすい資料や工夫された情報発信の方法や啓発ツールについて学びました（写真上右）。



**東北大学病院脳卒中・心臓病総合支援センターとリハビリテーション部：**発症前から回復後まで一貫して患者ひとりひとりの状態や生活に合わせて支援される、日本の統合的医療モデル提供の現場を視察（写真左上下）

**東北大学メディカル・メガバンク機構：**自治体と協働した生活習慣病対策と、健康データを活用した地域保健の先進的モデルについて学びました（写真右下）。



# 教育と地域施策による予防と健康的ライフスタイルの促進



東京都足立区「おいしい給食」事業：鹿浜未来小学校での食育活動を通じ、子どものころからの生活習慣づくりの重要性を学びました。講義後には給食の試食も体験（写真左・中央）。  
東松島市給食センター：民間連携による給食システムを視察。さらに、東松島市の行政管理栄養士による食育を通じた生活習慣病対策活動の工夫に触れました（写真右）。

## 震災後：レジリエントな保健システム



宮城県東松島市・震災遺構を見学し、東日本大震災の爪痕と、その後の復興の歩みを学びました。そして、日本が困難を乗り越えてきた回復力と力強さを実際に感じる機会となりました。

## インクルーシブ保健に向けた取り組み



誰ひとり取り残さない保健のあり方を考えるワークショップ（対面とオンラインを組み合わせた形式）を実施しました。講師として、実際に障がい

のある当事者の方2人を迎え、それぞれの経験をもとにお話いただきました。また参加した3か国が、それぞれの国での取り組みや現状について分かりやすく共有し、意見交換を行いました。

## 外国人利用者から見た日本の医療制度



日本在住30年のセネガル人講師を迎え、外国人の視点から見る、日本の医療の長所と課題についての意見交換を行いました。



## デジタル技術でつながる健康づくりと医療

国立健康危機管理研究機構：日本の保健医療制度、医療サービスのデジタル化の取組、及び糖尿病センターの役割・機能について学びました。

沢井製薬の個人健康記録アプリ「SaluDi」：民間企業によるデジタル技術を活用した健康づくりの取組から多くの示唆を得ました。



モロッコの研修員が、モロッコの伝統的なお菓子を振る舞いました。その甘いおもてなしは、研修のひとときを温かく彩りました。

## 学びの活用：帰国後のアクションプラン作成



ジュルベル州保健局長ママドゥ・ディエン氏が研修期間中に誕生日を迎え、参加者一同で和やかにお祝いしました。週末には東京を散策し、日本の都市の魅力を体感しました。